

農林水産統計

Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産省
大臣官房統計部
平成22年9月30日公表

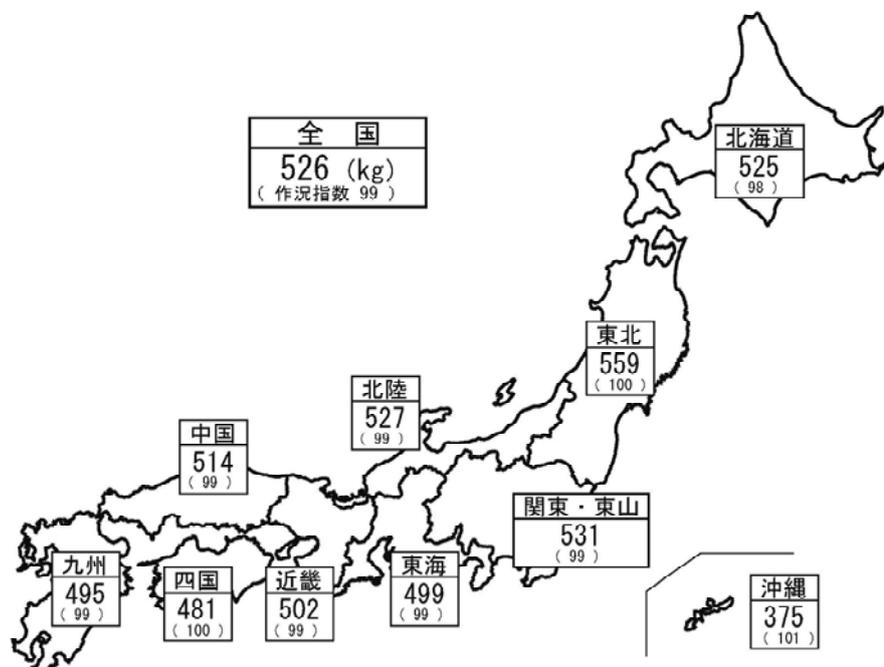
平成22年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況

－ 水稻の10a 当たり予想収量は526kg（作況指数99）の見込み －

【調査結果の概要】

- 1 平成22年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む）は165万7,000haで、うち主食用作付見込面積は158万haが見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数がおおむね平年を下回る一方、登熟はおおむね平年を上回って推移し、全国の10a 当たり予想収量は526kg（作況指数99）が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は830万8,000tが見込まれる。

図 全国農業地域別10a 当たり予想収量（9月15日現在）



注：沖縄の10a 当たり予想収量及び作況指数は第一期稲である。

- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整カウントとなる米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）である。
- 作況指数とは、10a 当たり平年収量に対する10a 当たり予想収量の比率である。
- この調査は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

この統計調査結果で使用している統計表は、政府統計の総合窓口(e-Stat)の「統計データ新着情報」でご覧になれます。

【 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do> 】

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況の確認のための資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための資料

◎関連データ

累年統計表

水稻の年次別推移（全国）

年 産	作 付 面 積 (青刈り面積を含む)		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	作 況 指 数	10 a 当 たり 平 年 収 量
	ha	うち、子実用 ha				
昭. 55	2 374 000	2 350 000	412	9 692 000	87	471
56	2 281 000	2 251 000	453	10 204 000	96	474
57	2 261 000	2 230 000	458	10 212 000	96	477
58	2 270 000	2 246 000	459	10 308 000	96	478
59	2 300 000	2 290 000	517	11 832 000	108	479
60	2 326 000	2 318 000	501	11 613 000	104	481
61	2 292 000	2 280 000	508	11 592 000	105	484
62	2 148 000	2 123 000	498	10 571 000	102	487
63	2 109 000	2 087 000	474	9 888 000	97	490
平. 元	2 093 000	2 076 000	496	10 297 000	101	492
2	2 071 000	2 055 000	509	10 463 000	103	494
3	2 046 000	2 033 000	470	9 565 000	95	497
4	2 099 000	2 092 000	504	10 546 000	101	498
5	2 131 000	2 127 000	367	7 811 000	74	499
6	2 201 000	2 200 000	544	11 961 000	109	499
7	2 110 000	2 106 000	509	10 724 000	102	501
8	1 980 000	1 967 000	525	10 328 000	105	502
9	1 950 000	1 944 000	515	10 004 000	102	504
10	1 800 000	1 793 000	499	8 939 000	98	507
11	1 786 000	1 780 000	515	9 159 000	101	512
12	1 768 000	1 763 000	537	9 472 000	104	518
13	1 711 000	1 700 000	532	9 048 000	103	518
14	1 693 000	1 683 000	527	8 876 000	101	522
15	1 670 000	1 660 000	469	7 779 000	90	524
16	1 704 000	1 697 000	514	8 721 000	98	525
17	1 709 000	1 702 000	532	9 062 000	101	527
18	1 692 000	1 684 000	507	8 546 000	96	529
19	1 678 000	1 669 000	522	8 705 000	99	529
20	1 637 000	1 624 000	543	8 815 000	102	530
21	1 637 000	1 621 000	522	8 466 000	98	530

資料：農林水産省統計部『耕地及び作付面積統計』、『作物統計』

【調査結果】

1 平成22年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む）は165万7,000haで、前年産に比べて2万haの増加が見込まれる。

これは、戸別所得補償モデル対策の実施に伴い、不作付地等において加工用米及び新規需要米への取組が進んだこと等による増加があったためである。

なお、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、需給調整カウントとなる米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた主食用作付見込面積は158万haで、前年産に比べて1万2,000haの減少が見込まれる。

2 9月15日現在における水稻の地域別の作柄は、北海道では、6月上旬以降の高温により分けつ発生期間が短縮されたこと等により穂数が少なく、全もみ数が少なくなったことから、10a当たり予想収量は525kg（作況指数98）が見込まれる。

東北では、5月中旬から6月上旬の低温等により全もみ数が少なかったものの、出穂後は、気温・日照ともにおおむね平年を上回り、登熟はおおむね順調に推移していることから、10a当たり予想収量は559kg（同100）が見込まれる。

関東以西では、5月中旬から6月上旬の低温・日照不足や6月中旬から7月中旬の日照不足により全もみ数がおおむね平年を下回る一方、登熟はおおむね平年を上回って推移し、北陸は10a当たり予想収量527kg（同99）、関東・東山は531kg（同99）、東海は499kg（同99）、近畿は502kg（同99）、中国は514kg（同99）、四国は481kg（同100）、九州は495kg（同99）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は526kg（同99）が見込まれる。

3 主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は830万8,000tが見込まれる。

表 平成22年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量（作況指数）
（全国農業地域別）

全国農業地域	作付面積 (青刈り面積を含む) ha	前年産との比較		10a当たり 予想収量 ① kg	参 考			
		対 差 ha	対 比 %		主食用作付 見込面積 ② ha	予想収穫量 (主食用) ③=①×② t	10a当たり 平年収量 ④ kg	作況指数 ⑤=①/④
全 国	1 657 000	20 000	101	526	1 580 000	8 308 000	530	99
北 海 道	115 100	600	101	525	112 400	590 100	535	98
東 北	428 300	7 200	102	559	400 600	2 241 000	557	100
北 陸	213 000	1 800	101	527	198 300	1 045 000	533	99
関東・東山	304 300	2 500	101	531	293 500	1 557 000	534	99
東 海	106 000	700	101	499	103 100	513 700	502	99
近 畿	111 100	300	100	502	109 000	547 600	509	99
中 国	119 300	1 600	101	514	116 600	598 900	517	99
四 国	58 400	200	100	481	57 600	277 500	483	100
九 州	200 700	4 800	102	495	188 400	933 800	502	99
沖 縄	637	△	42	94	375	...	370	101

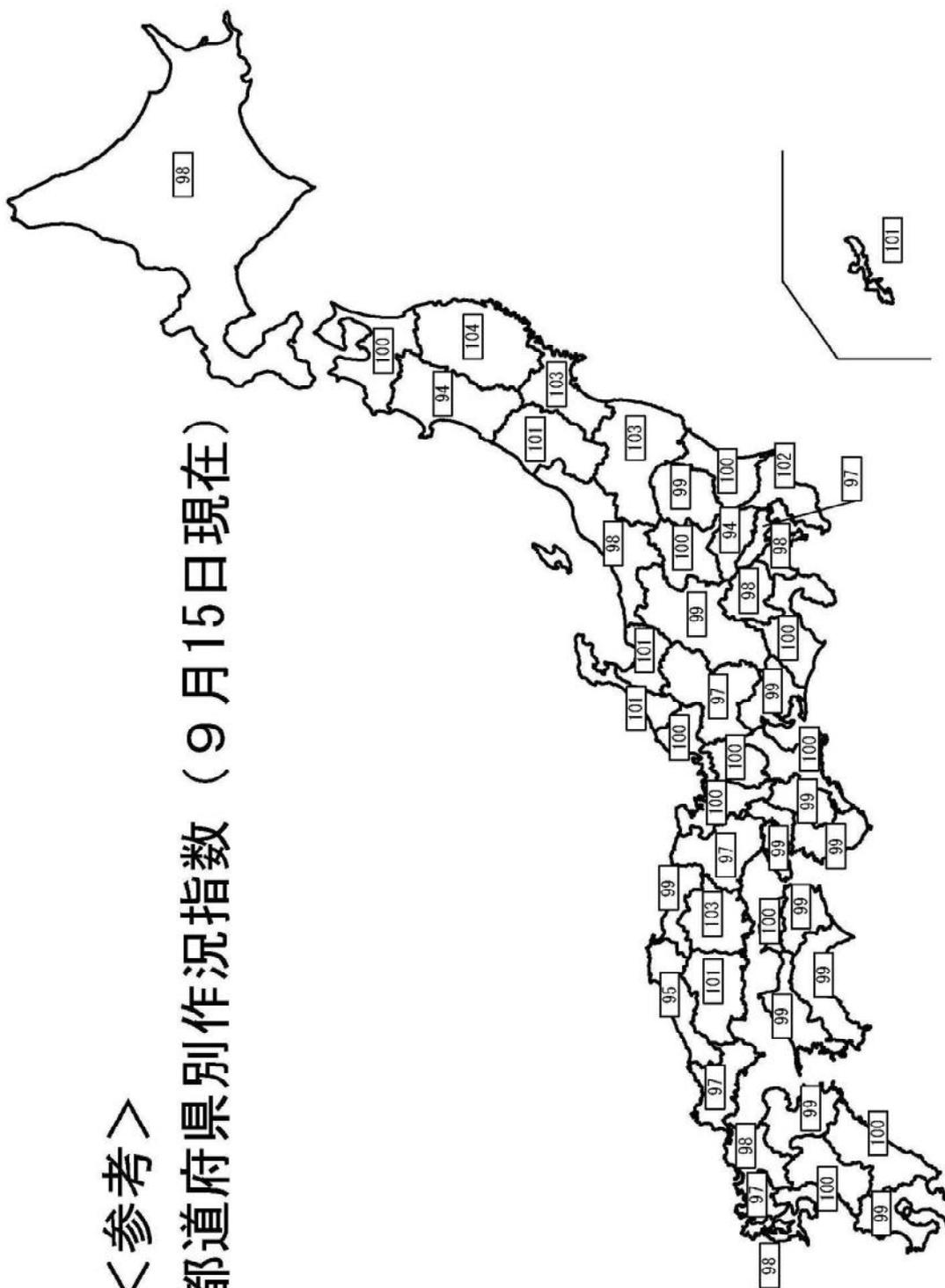
注：1 沖縄は第一期稲である。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、加工用米、新規需要米等の面積を除いた面積（見込み）である。

3 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

<参考>

都道府県別作況指数（9月15日現在）



注：1 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。
2 沖縄県の作況指数は第一期稲である。

【統計表】

【統計表一覧】

ページ

- 1 平成22年産水稻の作付面積、10a当たり予想収量及び作柄概況(9月15日現在)
・・・・・・・・・・ 6
- 2 平成22年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合(9月15日現在)・・・・・・・・・・ 8

【利用上の注意】

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数		7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1,000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数 (下から)		3けた	2けた		1けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

- 2 表中の「△」は、減少したものを示す。

1 平成22年産水稻の作付面積、10a

全 国 都道府県	作付面積 (青刈り面積を含む)	前年産との比較		10a当たり 予想収量 ①	(参) 主食用作付見込面積 ②
		対差	対比		
		ha	ha		
全 国 1	1 657 000	20 000	101	526	1 580 000
北 海 道 2	115 100	600	101	525	112 400
青 森 3	50 400	1 100	102	579	47 100
岩 手 4	57 600	700	101	554	54 800
宮 城 5	76 100	1 600	102	545	71 800
秋 田 6	92 800	2 400	103	538	82 300
山 形 7	69 700	1 100	102	600	65 300
福 島 8	81 900	500	101	553	79 400
茨 城 9	78 300	800	101	522	75 400
栃 木 10	65 800	1 600	102	536	61 900
群 馬 11	18 500	100	101	492	17 300
埼 玉 12	36 100	200	101	461	35 400
千 葉 13	62 200	△ 100	100	542	60 800
東 京 14	179	△ 7	96	397	179
神 奈 川 15	3 220	0	100	479	3 220
新 潟 16	119 600	1 200	101	526	108 600
富 山 17	39 900	300	101	538	38 100
石 川 18	26 600	200	101	524	25 500
福 井 19	27 000	100	100	518	26 100
山 梨 20	5 300	△ 30	99	537	5 260
長 野 21	34 800	100	100	617	34 000
岐 阜 22	25 500	400	102	475	24 700
静 岡 23	17 900	0	100	520	17 300
愛 知 24	31 200	0	100	503	30 600
三 重 25	31 300	200	101	500	30 500
滋 賀 26	33 400	100	100	516	32 500
京 都 27	15 800	0	100	509	15 700
大 阪 28	5 820	△ 20	100	488	5 820
兵 庫 29	39 000	200	101	490	38 100
奈 良 30	9 400	50	101	508	9 330
和 歌 山 31	7 620	△ 30	100	492	7 620
鳥 取 32	14 600	300	102	507	14 100
島 根 33	19 900	400	102	485	19 200
岡 山 34	34 300	400	101	540	33 400
広 島 35	26 500	300	101	527	26 000
山 口 36	24 000	200	101	489	23 900
徳 島 37	13 700	△ 100	99	471	13 500
早期栽培 38	5 330	0	100	453	...
普通栽培 39	8 380	△ 60	99	482	...
香 川 40	15 300	100	101	499	15 300
愛 媛 41	15 900	300	102	493	15 800
高 知 42	13 500	△ 100	99	456	13 100
早期栽培 43	7 950	△ 80	99	468	...
普通栽培 44	5 580	30	101	440	...
福 岡 45	40 400	500	101	490	39 000
佐 賀 46	28 100	1 100	104	509	27 700
長 崎 47	14 200	100	101	467	13 900
熊 本 48	43 500	1 400	103	513	39 100
大 分 49	25 700	300	101	500	24 300
宮 崎 50	23 200	800	104	494	20 000
早期栽培 51	9 440	110	101	479	...
普通栽培 52	13 700	600	105	505	...
鹿 児 島 53	25 600	600	102	473	24 500
早期栽培 54	6 440	360	106	430	...
普通栽培 55	19 200	200	101	487	...
沖 縄 56	959	11	101	...	896
第一期稲 57	637	△ 42	94	375	...
第二期稲 58	322	53	120

注：1 沖縄県平均の10a当たり予想収量及び作況指数は第二期稲が出穂前であるため「…」で示しており、沖縄県計の予想収量（主食用）の算出には10a当たり平年収量を用いた。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、加工用米、新規需要米等の面積を除いた面積（見込み）である。ただし、宮崎県については、口蹄疫の発生により加工用米、新規需要米等の把握が遅れていることから、情報収集等により作成した概数値である。

当たり予想収量及び作柄概況（9月15日現在）

考)				平 年 比 較				全 国 ・ 都道府県
	予想収量(主食用) ③=①×②	10a当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=①/④	穂数の多少	1 穂当 たりの もみ数 の少 多	全 も み 数 の 多 少	登熟の良否	
t	kg							
8 308 000	530	99	…	…	…	…	…	1
590 100	535	98	少ない	やや多い	少ない	良		2
272 700	580	100	少ない	やや多い	少ない	良		3
303 600	533	104	少ない	多い	平年並み	やや良		4
391 300	530	103	少ない	多い	やや少ない	やや良		5
442 800	573	94	少ない	多い	やや少ない	平年並み		6
391 800	594	101	少ない	多い	平年並み	やや良		7
439 100	537	103	少ない	多い	平年並み	やや良		8
393 600	520	100	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		9
331 800	539	99	やや少ない	やや多い	やや少ない	やや良		10
85 100	494	100	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み		11
163 200	493	94	やや少ない	やや少ない	少ない	やや不良		12
329 500	533	102	平年並み	平年並み	やや少ない	やや良		13
711	408	97	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み		14
15 400	490	98	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや良		15
571 200	539	98	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み		16
205 000	535	101	少ない	多い	平年並み	平年並み		17
133 600	519	101	少ない	多い	やや多い	やや不良		18
135 200	517	100	少ない	多い	平年並み	平年並み		19
28 200	547	98	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み		20
209 800	623	99	少ない	多い	平年並み	平年並み		21
117 300	488	97	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み		22
90 000	521	100	平年並み	やや少ない	やや少ない	やや良		23
153 900	507	99	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良		24
152 500	500	100	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み		25
167 700	518	100	少ない	多い	平年並み	平年並み		26
79 900	511	100	少ない	多い	平年並み	平年並み		27
28 400	495	99	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み		28
186 700	504	97	少ない	やや多い	やや少ない	平年並み		29
47 400	513	99	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		30
37 500	495	99	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み		31
71 500	514	99	少ない	多い	やや少ない	平年並み		32
93 100	509	95	少ない	多い	やや少ない	やや不良		33
180 400	526	103	やや少ない	多い	平年並み	平年並み		34
137 000	523	101	少ない	多い	平年並み	平年並み		35
116 900	504	97	少ない	多い	やや少ない	平年並み		36
63 600	474	99	…	…	…	…		37
…	463	98	少ない	平年並み	少ない	やや良		38
…	480	100	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		39
76 300	499	100	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		40
77 900	498	99	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		41
59 700	459	99	…	…	…	…		42
…	478	98	少ない	平年並み	少ない	良		43
…	432	102	少ない	多い	やや少ない	やや良		44
191 100	499	98	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み		45
141 000	527	97	やや少ない	やや少ない	少ない	やや良		46
64 900	476	98	少ない	やや少ない	少ない	やや良		47
200 600	515	100	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良		48
121 500	503	99	少ない	やや多い	少ない	やや良		49
98 800	495	100	…	…	…	…		50
…	478	100	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		51
…	509	99	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		52
115 900	479	99	…	…	…	…		53
…	439	98	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良		54
…	492	99	少ない	やや多い	やや少ない	やや良		55
2 770	309	…	…	…	…	…		56
…	370	101	やや少ない	平年並み	やや少ない	やや良		57
…	…	…	…	…	…	…		58

3 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の早期・普通期別等の主食用作付見込面積は、作期別に加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

4 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の県平均の「穂数の多少」以降の指標は、調査を早期・普通期別等に行っており県平均を取りまとめていないため、「…」で示している。

2 平成22年産水稻の出穂期及び刈取済面積割合（9月15日現在）

都道府県	出 穂 期						刈取済面積割合
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較			
				対平年	対前年		
	月 日	月 日	月 日				%
北海道	7. 21	7. 27	8. 1	7日早	9日早		34
青森	7. 29	8. 2	8. 5	7日早	9日早		3
岩手	7. 31	8. 4	8. 10	5日早	3日早		3
宮城	7. 31	8. 3	8. 7	5日早	3日早		2
秋田	7. 31	8. 3	8. 8	3日早	4日早		1
山形	7. 31	8. 4	8. 12	5日早	4日早		2
福島	8. 2	8. 8	8. 15	6日早	5日早		0
茨城	7. 23	7. 31	8. 11	5日早	2日早		83
栃木	7. 28	8. 3	8. 18	4日早	2日早		34
群馬	8. 7	8. 18	8. 28	5日早	5日早		3
埼玉	7. 27	8. 11	8. 27	2日早	2日早		40
千葉	7. 15	7. 25	8. 7	5日早	3日早		98
東京	8. 7	8. 13	8. 20	5日早	3日早		0
神奈川	8. 2	8. 9	8. 19	4日早	4日早		7
新潟	7. 29	8. 7	8. 14	3日早	2日早		22
富山	7. 23	8. 5	8. 13	2日早	2日早		46
石川	7. 21	8. 3	8. 10	1日早	1日早		63
福井	7. 20	8. 4	8. 14	3日遅	2日遅		75
山梨	8. 3	8. 11	8. 20	3日早	3日早		6
長野	7. 30	8. 6	8. 14	4日早	5日早		16
岐阜	7. 22	8. 19	9. 1	1日早	1日早		31
静岡	7. 23	8. 9	8. 31	5日早	5日早		40
愛知	7. 26	8. 17	9. 1	1日早	1日早		31
三重	7. 18	7. 27	8. 8	2日遅	3日遅		93
滋賀	7. 29	8. 3	8. 18	並み	1日遅		50
京都	7. 26	8. 6	8. 20	3日早	2日早		41
大阪	8. 2	8. 22	8. 31	並み	1日早		8
兵庫	7. 30	8. 12	8. 27	1日早	並み		37
奈良	7. 31	8. 22	8. 27	2日早	1日早		13
和歌山	7. 19	8. 8	8. 23	並み	並み		42
鳥取	7. 30	8. 7	8. 18	2日早	4日早		40
島根	7. 25	8. 5	8. 17	1日遅	2日早		58
岡山	7. 24	8. 18	9. 2	2日早	2日早		24
広島	7. 27	8. 11	8. 24	3日遅	1日遅		46
山口	7. 30	8. 9	8. 28	3日早	5日早		40
徳島	7. 11	7. 18	7. 25	2日遅	4日遅		100
香川	7. 17	8. 1	8. 26	3日早	並み		69
愛媛	7. 23	8. 21	9. 1	1日早	1日早		37
高知	7. 17	8. 15	9. 2	2日遅	2日遅		41
福岡	7. 3	7. 11	7. 20	5日遅	6日遅		100
佐賀	8. 15	8. 20	9. 3	並み	1日早		2
長崎	8. 2	8. 22	9. 3	2日早	4日早		17
熊本	7. 21	8. 26	9. 10	並み	並み		9
大分	7. 19	8. 25	9. 6	並み	1日早		15
宮崎	7. 13	8. 20	9. 4	1日早	1日早		8
鹿児島	8. 2	8. 24	8. 31	並み	1日早		4
沖縄	6. 27	7. 2	7. 6	6日遅	10日遅		100
（第一期稲）	8. 19	8. 24	9. 3	1日早	1日早		0
	6. 24	6. 30	7. 9	2日遅	4日遅		100
	8. 21	8. 27	9. 5	並み	1日遅		0
	5. 3	5. 15	5. 27	6日早	並み		100

注：出穂期の始期とは出穂済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の作付面積、生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

なお、全国農業地域の区分は、次のとおりである。

全国農業地域	所属都道府県名
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
北陸	新潟、富山、石川、福井
関東・東山	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野
東海	岐阜、静岡、愛知、三重
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

3 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：39,484単位区 巡回・見積り：1,728市町村

(2) 作柄概況調査

作況標本筆：10,285筆 作況基準筆：615筆 巡回・見積り：1,728市町村

4 調査事項

水稲の作付面積、は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、莖数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

5 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 作柄概況調査：9月15日現在

6 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。

(2) 作柄概況調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

7 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。

(2) 作柄概況調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

8 用語の解説

(1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。

(2) 「穂数の多少」とは、1 m²当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(3) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(4) 「全もみ数の多少」とは、1 m²当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。

(5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。

(6) 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1 m²当たり穂数等）の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多 い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

(7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率である。

(8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

9 利用上の注意

本調査(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

【関連リンク】

米関係ページ：農林水産省>食料 <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
農林水産省>生産 <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

米政策関連ページ：<http://www.maff.go.jp/j/soushoku/jyukyu/komeseisaku/>

全国米穀取引・価格形成センター：<http://www.komekakakucenter.jp/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：03 (3502) 5687

面積統計班

電話：03 (6744) 2045

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画課 広報普及班

電話：03 (6744) 2037